

諏訪小だより

令和7年2月28日
3月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

「風化させない」

校長 齋藤幸之介

過日実施いたしました道徳授業地区公開講座並びに学校公開には多数御参観くださいまして誠にありがとうございました。子供たちの平素の学校生活をご覧いただけたかと思います。反省については、残りわずかな時間となりました今年度、さらには来年度に生かしてまいりたいと思います。

さて、過去3年間、私は「諏訪小だより3月号」には必ず東京大空襲、東日本大震災、そして新型コロナウイルス感染症について述べてまいりました。今年度も同様になって恐縮ですが、改めてここに記したいと思います。

80年前となった惨禍－東京大空襲

私は、先日都内江東区にある東京大空襲・戦災資料センターに行っていました。入り口には、河野新という方がお作りになった「戦火の下で」という、母が乳児を抱きしめた像があります。一つの命を愛でる母の深い思いが痛いほど伝わってくる作品です。

館内に入ると、当時の被害のむごさが改めて伝わってくる資料が多くありました。例えば、木造建築が主流であった日本の家屋を効率的に燃えるよう、B29がナパームというガソリンの一種を焼夷弾として大量にまき散らした、との説明がありました。

日付が変わった頃、1945年3月10日に約10万人の命が奪われ、100万人に被害が及んだこの東京大空襲を始めとする戦災は、戦いが始まってしまうと避けることができない悲劇なのではないか、と胸が痛くなりました。

多くの掲示の横に報道写真家の丸山博さんが撮った「ウクライナ戦争がもたらす悲しみ」と題した写真展も行われていました。日々報道される戦争の被害は東京大空襲から80年が経とうとしている今日も世界のどこかで続いています。子供たちと平和のあり方を考え、「私たちはどうしたらよいのか」を問い続けられたらと思っています。

感染症の状況を注視しながら

新型コロナウイルス感染症が我が国に広がり、本校の臨時休校が始まったのが令和2年3月2日

でした。およそ3か月後の6月1日から学校が再開しますが、その間、本校は登校日を設けていたことが分かりました。このときには私はまだ着任しておりませんでしたが、当時の教職員の苦労と「子供たちを少しでも学校に通わせたい」という願いとが伝わってくる方策である、と捉えています。マスクの着用が求められ、学校行事を行うことすらままならなかったわけです。

現在は日常が取り戻された、とも言われます。しかし、例えばインフルエンザが猛威を奮って私共を多に悩ませます。このようなとき、5年前の学びを想起しながら、今は何をすべきか、どうすれば影響を最小限に止められるか、を考えて対応に当たっています。皆様の御尽力のおかげで、本年度は今のところ学校閉鎖・学級閉鎖もなく過ごせています。過去から学び、今できることをする大切さを改めて子供たちに伝えたいと思います。

「風化」－ある研究発表会から

先日、私は東京都公立小学校長会研究発表会に参加をしました。私は「学校安全」部会に参加し、主に自然災害に備えての発表を聞いたり、グループで話し合ったりしました。

その中で、子供たちにどのようにして真剣に避難訓練を行わせるかが話題になりました。換言すれば、東日本大震災のような大きな自然災害が起きたことを想定した際にどれだけ切実感をもって訓練に取り組ませるかを考えなければならない、ということです。恐れ多くも、私は「本校では教職員が真剣に取り組み、子供たちもしっかりと訓練を行っている」と発言をしました。東日本大震災を経験している全教職員が、ある時にはしっかりと語り、またある時には語らずとも具体的な指示を出しながら確実に避難をさせているからです。

あの日から14年が経ちました。昨年の日には能登半島地震が起きました。自然災害には太刀打ちできない、だからこそ、自然災害から様々なことを学ぶ、つまり「風化させない」でこれからに生かしていくことを常に念頭に置きたいと思っています。

今年度のテーマとして「風化させない」を掲げ、全校朝会にて子供たちに伝えているところです。

移動教室から学んだこと

2月20日(木)・21日(金)、5年生は移動教室に行っていました。今冬は多摩市も冷え込みが厳しく、例えば本校の観察池には例年よりも氷が張る場合が多いです。しかし、宿舎及びスキーゲレンデのある長野県諏訪郡富士見町は多摩市とは比べものにならないほどの寒さで、21日の朝は氷点下12℃を下回るほどでした。

子供たちのスキーの上達は本当に早く、1日目はおよそ4時間のレッスンを行いましたが、ほとんどの子供たちがゲレンデをゆっくりと滑ることができました。多くの方は御存じのことと思いますが、「ゆっくりと」がとても難しくあります。しかし、インストラクターの方々の分かりやすい御指導で、スピードをうまくコントロールしながら滑る子供たちの姿は「すごい」一言でした。2日目は2時間ほどでしたが、さらに上達しました。自信をつけた子が多くいたことは言うまでもありません。

さて、今回私は二つのことを見聞きすることができました。

「諏訪小の子供たちは頑張るんですね」

1日目、子供たちは10時過ぎに富士見高原スキー場に到着し、ウェアを着てゲレンデに出ました。開校式が終わった後、ベテランのインストラクターが私に近付いていらっしゃいました。そして、こうおっしゃったのです。「諏訪小の子供たちは頑張るんですね」。まさかこのような言葉を頂戴するとは思っておらず、驚きました。同時に、心の底から嬉しくなりました。

それはお褒めいただいたこと自体もそうですが、「諏訪小の子供たち」という表現が私に響いたのです。お分かりの通り、これは今年に限ったことではない、ということです。このインストラクターは、過去に出会った子供たちを思い浮かべながら取組のよさを認めてくださり、そして今年にも期待をしてくださったのです。もちろん、今年の5年生も頑張っていました。

活動を途中で諦めることが課題と言われ、例えば学習活動においても「粘り強く取り組む姿」が求められています。しかし、本校の子供たちには、スキーに取り組む姿から「粘り強さ」がある、と評価をされたわけです。

また、ある教員は、「レッスン中の子供たちの返事が素晴らしい」と言われたそうです。これも、一所懸命に取り組んでいる姿を表しています。

素直に、そして粘り強く取り組む、この姿に改めて感激をするとともに、ゴーグルと帽子を身に付

けていてわずかし読み取れない子供たちの口元のほほえみが忘れられません。

「みんなで生活することは、

楽しくもあり、難しくもある」

宿舎である多摩市八ヶ岳少年自然の家に到着後、すぐに入所式が行われました。

施設の方にも御挨拶を頂戴しました。御言葉の中に「みんなで生活することは、楽しくもあり、難しくもある」がありました。特に、みんなでの生活が「難しい」という表現をいただいたことがなく、その意味の深さに頷いていました。

寝食を共にする集団生活は、多摩市の場合小学校時代は合計3泊であり、長いとは言えません。5年生で経験していても、しばらく時間を置いての6年生の宿泊行事となりますから、忘れてしまうこともあります。そんな条件で「みんなと生活する」ことは難しい、というのはその通りです。特に、「合わせる」ことは本当に難しいです。

例えば、些細なことかもしれませんが、風呂に入った際には、ある子は立ってシャワーを浴び、またある子は椅子に腰かけます。どちらがよいとは言えませんが、少なくとも「お互いが使いやすいように」することは必要となります。

様々な場面で、決まった時刻に集合することも求められます。もし遅れたら、スキーのレッスン時間が短くなるかもしれません。このことを誰もが意識しなければみんなが楽しい時間を過ごせないことを理解し、行動できなければなりません。

例えば家族で旅行をする際の自由さはないでしょう。また、学校生活でも「自由」が付いてくる場面や活動もあり、今後さらに多く用いられる表現なのかもしれません。しかし、同時に子供たちに求められるのは、施設の方がおっしゃった「みんなで」活動する際に大切にすべきことなのだろう、と改めて思っています。このことは、ひょっとすると学校の魅力の一つなのかもしれません。皆様はどうお考えになるのでしょうか。

今回、私共は以上のことを平素から大切にすべき、と改めて気付かされました。これらを本校全体の学びとすべく、今後も取り組んでいきたいと考えています。